説教要旨「心が燃える体験を」

ルカによる福音書２４章４４～５３節

イエス様は、無理解な弟子たちに辛抱強く、何度も何度も語りかけ、諭し、導こうとされてきました。そんなイエス様の姿は、この福音書の最後の場面においても繰り返されています。しかしそれは、ただ聖書の言葉を説明したというだけのことではありません。もしそうであったなら、弟子たちはまた理解できないままだったはずです。聖書を知識として知っているだけでは、聖書に記されている神様の御心は分からないのです。そのためにイエス様は、弟子たちの心の目を開かれました。心の目が開かれて初めて、悟ることのできるものとされたのです。

わたしたちもまた、心の目が開かれなければ、聖書のメッセージを本当の意味で理解すること、聖書を悟ることはできません。しかし、イエス様はすでに天に昇られていて、この弟子たちにしたようにわたしたちの前に肉体をもって現れ、直接にわたしたちの心の目を開いてくださることはありません。しかし、イエス様を肉眼で見ることのできない時代を生きる人々のため、つまりはわたしたちのために、イエス様は“高い所からの力”である聖霊で、この地上を満たして下さる約束をしてくださいました。わたしたちの心の目を開かせる力、それがルカ福音書が語る聖霊の働きです。

わたしたちはこの聖霊の働きを、大地を潤す雨に見いだすこともできます。当たり前のようにわたしたちを育み、養ってくださる神様の思いへと、わたしたちの心の目を開かせる力です。また、そうした自然の営みの中だけでは無く、ごく個人的な体験の中で聖霊の働きを見出すこともあるでしょう。

ある人にとってそれは、家族や友人と過す時間のなかで与えられるかもしれません。ある人にとっては、病などの困難に直面し、必死に祈る中で与えられるかもしれません。それは神様がわたしを愛してくださっていて、イエス様が今も共にいてくださると信じられるような体験です。

そしてそれは往々にして、その時すぐには気付かず、後になって「あぁあのとき、確かにイエス様が共にいてくださった」と、思い返すのです。

（２０２１・５・２３　説教者：稲垣真実）